

問1 縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた | 2. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた | 3. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式的道具として作られた | 4. 食料を保存したり、煮炊きを行ったりするための日常的な容器として作られた |
|----------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--|

問2 日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものととして正しいものはどれですか。

(2026年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。 | 2. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。 | 3. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。 | 4. 土偶は縄文時代に作られ、豊穣や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。 |
|--|--|--|---|

問3 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 持続可能な社会 | 2. 多文化共生社会 | 3. 高度情報化社会 | 4. 中央集権社会 |
|------------|------------|------------|-----------|

問4 縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。 | 2. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。 | 3. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。 | 4. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。 |
|--|---|---|--|

問5 ある中学生が地元の歴史博物館で調べた内容をまとめた報告書の中で、「市内で発掘された、表面に縄を転がしたような模様がある土器」について記述しています。一万数千年前から紀元前数世紀まで続き、このような土器を使って狩猟・採集・漁労を主とする生活が行われていた時代を何といいますか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 古墳時代 | 2. 縄文時代 | 3. 旧石器時代 | 4. 弥生時代 |
|---------|---------|----------|---------|

問6 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。 | 2. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。 | 3. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。 | 4. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。 |
|--|---|---|--|

問7 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 1. 吉野ヶ里遺跡 | 2. 岩宿遺跡 | 3. 三内丸山遺跡 | 4. 登呂遺跡 |
|-----------|---------|-----------|---------|

問8 青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。 (2025年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。 | 2. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。 | 3. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。 | 4. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。 |
|--|--|---|--|

問9 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。 | 2. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。 | 3. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。 | 4. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。 |
|---|--|---|--|

問10 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた | 2. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した | 3. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった | 4. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ |
|---|--|---|--|

問11 約1万以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた | 2. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた | 3. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された | 4. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|

問12 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品（土偶）に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|-------------------------------------|---|--|
| 1. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である | 2. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である | 3. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された | 4. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された |
|---|-------------------------------------|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の 道具として作られた	土偶は縄文時代を代表する土製品であり、その多くは女性を模して作られています。当時の人々は、自然界のあらゆるものに精霊が宿ると信じており、食料となる植物や動物の豊作、あるいは子孫繁栄や安産を願うための信仰の対象として土偶を用いていました。古墳時代に古墳の周囲に並べられた埴輪（はにわ）と混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 4 土偶は縄文時代に作られ、豊穰や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。	縄文時代の土偶は、自然の恵みを祈る宗教的な役割を持っていました。これに対し、はにわは古墳時代の巨大な墳墓（古墳）に伴うもので、権力者の葬儀や古墳の区画を示すために立てられました。両者は見た目が似ている場合がありますが、狩猟採集中心の縄文時代と、大規模な身分差が生じた古墳時代という社会構造の違いを反映しています。
問3	答え 2 多文化共生社会	アイヌ民族は長年、同化政策などによって独自の文化を制限されてきた歴史があります。しかし現在では、そのアイデンティティを尊重し、異なる文化を持つ人々が互いに理解を深めながら対等な関係で共に生きていく「多文化共生社会」の実現が、人権保障や民主主義の観点から重要な目標とされています。
問4	答え 4 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。	丸木舟は水上移動や漁具として使われ、貝塚には魚の骨や貝殻が大量に含まれていることから、当時の人々が自然の恵み（特に水産資源）を巧みに利用して生活していた背景がわかります。組織的な外交や本格的な稲作、集落を守るための堀（環濠集落）などは、主に弥生時代以降に顕著になる特徴です。
問5	答え 2 縄文時代	氷河期が終わり、気候が温暖になったことで、日本列島では弓矢を用いた狩猟や豊かな海産物をとる漁労、木の実の採集が盛んになりました。この時代に使用された、表面に縄目の文様がある土器は「縄文土器」と呼ばれ、食料を煮炊きしたり保存したりするために活用されました。
問6	答え 1 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	土偶と埴輪はどちらも人型の土製品ですが、時代と役割が大きく異なります。土偶は縄文時代の狩猟・採集社会において、生命の誕生や自然の恵みを祈る宗教的な道具として機能しました。一方、埴輪は古墳時代に現れ、王や有力者の墓である古墳を飾り、その聖域を守る役割や、葬送の儀礼のために立て並べられました。
問7	答え 3 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問8	答え 1 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。
問9	答え 3 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問10	答え 4 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ	縄文時代には、土器を使って食物を加熱調理（煮炊き）する技術が普及しました。これにより、以前は消化できなかったデンプン質の木の実なども食用にできるようになり、食生活が安定しました。その結果、人々は一箇所に留まって生活するようになり、竪穴住居による集落が形成されました。稲作や高床倉庫、金属器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問11	答え 2 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問12	答え 3 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された	縄文時代の人々は狩猟や採集によって生活していたため、自然の豊かさは生存に直結する重要な要素でした。土偶が壊された状態で発見されることも多いことから、病气や怪我を土偶に移して平癒を祈ったり、食べ物の豊作や安産を祈ったりする宗教的な儀式に使われていたと考えられています。選択肢にある「古墳の周辺に配置」されるのは埴輪であり、土偶とは時代も目的も異なります。